

「女子高生ちえの社長日記」



企業の組織活性化、ブランド構築、業務改革などのコンサルタント業務に深くかかわっている著者が、これからの会社を担う若手社員の視野を広げ、新しい仕事への挑戦意欲を高めるために書かれた本である。

父親の急死で突然社長になった十七歳の女子高生が主人公で、小説仕立てになっているのが特徴。ゼロから出発した社長の「ちえ」が、秘書や各部署の部長たちから仕事の内容を教わり、分からないことは素直に質問。時には、

●●●●●  
 かながわの本  
 ●●●●●

会社の知識を小説仕立てで

高校生らしい斬新なアイデアを出しながら組織運営や現場の情報をも身に付けていく。仲間の助けを借りながらの社長業には、助け合いの精神も感じ取れてほほえましい。

部外者には分かりにくいビジネス用語が出てくるが、これが執筆の狙い。

従来の「用語解説」的な書物では理解しにくい会社の知識、例えば(減価償却、OEM、QCD、リードタイムとロットサイズ、内示と先行情報、ISO、POS、知的財産権など)を、ちえと社員のやりとりを示すことで、実感を持って用語を理解できるように工夫されている。「ケースタディー・ビジネスノベルズ」という新しい試みとなっている。

著者は横浜市出身。

甲斐正晃 著